

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27 - 153	高等学校	国語	国語総合	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
143 筑摩	国総 355 / 356	精選国語総合 現代文編 改訂版 精選国語総合 古典編 改訂版		

1. 編修の趣旨及び留意点

◎この教科書は、「教育基本法」「学校教育法」の規定や理念を踏まえ、特に以下の点に留意して編修しました。

- ①豊かな人間性・創造性を身につけさせる。
- ②平和で民主的な国家及び社会の形成者たる人物を育成する。
- ③社会において果たさなければならない使命を自覚させる。
- ④それぞれの個性に応じた進路を決定するのに必要な一般的な教養を高める。
- ⑤社会について、広く深い理解と健全な批判力を養う。
- ⑥社会の発展に寄与する態度を養う。

2. 編修の基本方針

◎教育基本法第2条の1～5号に示された教育の目標を達成するために必要な教材を精選して掲載しました。さらに、掲載された教材が上記の教育の目標を達成するのに効果的な学習ができるよう「学習の手引き」などを付して配慮しました。

3. 対照表

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	古典から近代に至るまでの我が国のすぐれた文章から、文章の基本的諸形態にわたるよう配慮しながら精選して掲載し、各教材末に掲載した「学習の手引き」で学習の指針を示すことにより幅広い教養と真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培えるよう意を用いました。	全ページ
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	左記に示された教育の目標を達成するのに有効と思われる教材を精選して掲載し、「学習の手引き」で指針を示すとともに、表現でもそれらが実践できるような課題を掲載しました。	〈上巻〉 P. 8～13 P.63～68 P.82～87 P.150～156 P.176～183 P.200～212 P.213～221 P.246～268

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	該当箇所
		〈下巻〉 P.27～30 P.36～38 P.136～138
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	左記に示された教育の目標を達成するのに有効と思われる教材を精選して掲載し、「学習の手引き」で指針を示すとともに、表現でもそれらが実践できるような課題を掲載しました。	〈上巻〉 P.20～24 P.63～68 P.82～87 P.88～92 P.126～133 P.134～141 P.184～190 〈下巻〉 P.27～29 P.36～38 P.39～40 P.41～42 P.136～138 P.146～147 P.148～149 P.162～167 P.168～169
第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	左記に示された教育の目標を達成するのに有効と思われる教材を精選して掲載し、「学習の手引き」で指針を示すとともに、表現でもそれらが実践できるような課題を掲載しました。	〈上巻〉 P.82～87 P.88～92 P.126～133 P.142～149 P.200～212 〈下巻〉 P.46 P.65～67
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	左記に示された教育の目標を達成するのに有効と思われる教材を精選して掲載し、「学習の手引き」で指針を示すとともに、表現でもそれらが実践できるような課題を掲載しました。	〈上巻〉 P.69～74 P.82～87 P.94～100 P.126～133 P.134～141 P.142～149 P.176～183 P.200～212 〈下巻〉全ページ

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

◎義務教育の成果を発展拡充させて、高等学校の国語科唯一の必修科目として期待される一般的な教養を高めることができるよう教材の選定などに意を用いました。さらに、発達段階での適時性に配慮して教材を選定しました。また、言語教育としての国語科の立場を明確にしながら、充実した学習が可能になるよう意を用いました。

- (備考) 1 ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入すること。
2 「編修の趣旨及び留意点」欄には、編修に当たっての趣旨及び留意点を記入する。
3 「編修の基本方針」欄には、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために編修の基本方針とした点を記入する。
4 「対照表」欄については、図書の構成・内容と教育基本法第2条各号に示す教育の目標との対照について記入する。詳細は次のとおりとする。
① 「特に意を用いた点や特色」欄には、教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、図書の構成や内容において編修上特に意を用いた点や特色について記入する。その際、教育基本法第2条各号のうち、特に関連が深いものを文末に示す。(例：第○号)
② 「該当箇所」欄には、上記内容に対応する具体的な箇所が分かるように、主な該当箇所のページ(例：○ページ)を記入する。
③ 必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
5 「上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色」欄については、上記の記載事項以外に、教育基本法第5条に示す義務教育の目的や学校教育法第21条に示す義務教育の目標、学校教育法第51条に示す高等学校教育の目標などを達成するため、編修上特に意を用いた点や特色などがあれば記入する。
6 別紙様式8の分量は5ページ以内とする。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時間数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27 - 153	高等学校	国語	国語総合	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
143 筑摩	国総 355 / 356	精選国語総合 現代文編 改訂版 精選国語総合 古典編 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

学習指導要領「国語総合」に掲げられた目標を効果的に達成するために、特に以下の点に留意して編集しました。

- ①**二分冊・ジャンル別の単元構成** 教育現場の多様化した指導の実態を考慮して、「現代文編」「古典編」の二分冊構成とし、単元は原則としてジャンルごとにまとめました。各単元の中では、時代や傾向・難易度を異にする教材を複数配置することを心がけ、全体に多様で重層的なふくらみが生まれるよう意を用いました。
- ②**発達段階に応じた教材を厳選** 生徒の心身の発達段階を十分に考慮して、高校教育の基礎を固め、さらに後続する「現代文B」「古典B」「古典A」への移行が円滑にできるよう、親しみやすい教材から、問題意識の鮮明な教材まで厳選して掲載しました。また、教材として適度な長さで、なおかつ奥行きのある文章を選びすぎりました。
- ③**領域別の教材の内容** 「現代文編」は、とりわけ「読むこと」の学習をめざす教材の中で、「小説」はオーソドックスで親しみやすい作品を中心に構成し、「評論」は新鮮で論理の筋の明快な作品を積極的に掲載して全体の充実を図りました。また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習が集中的に行えるように「表現編」を設けました。調べたり取材したりしながら実際に短い文章を書き、「読むこと」の学習との関連も考慮しつつ、全体の構成に配慮しました。「古文編」「漢文編」では、古文・漢文の基礎的な学力を育み、その上に発展的な学習を積み上げられるよう、各時代から代表的な教材を選んで編集しました。「古文入門」「漢文入門」の単元の充実を図りつつも、古典を理解する力のさらなる強化をめざしました。
- ④**学習者の自学自習に便利なコラム** 「現代文編」では、現代文学習に役立つ内容を「羅針盤」として適宜まとめるとともに、各教材の理解に役立つ内容を「キーワード」として教材毎に示しました。また「古典編」では、古典文法や漢文訓読のまとめが適切にできるように、それぞれ「古典文法の窓」「訓読のきまり」などのコラムを設けました。
- ⑤**「学習の手引き」「脚問」** 読解上注意すべき箇所に「脚問」を置き、「学習の手引き」(現代

文編＝予習・構成・読解・表現／古典編＝読解・表現)では、各教材への理解を深め、学習活動を充実させるためのポイントを示しました。また、「現代文編」では、重要漢字・語句を、「古典編」では、重要語句や重要句法をまとめ、「言語事項」に配慮しました。

⑥レイアウト 全体に見やすいレイアウトとなるよう配慮するとともに、学習の効率化と活性化を図るために多色刷りを用い、必要な図版や地図などを適宜カラーで掲載しました。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容														配当時間				
編名・単元名	教材名・作者名	A 話すこと 聞くこと				B 書くこと				C 読むこと				伝統的な文化と国語の特質に関する事項						
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア		イ	ウ		
															(ア)		(イ)	(ア)	(イ)	(ア)
【現代文編】																				
はじめに 評論一	境目 川上弘美	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○			○	○	○	1
	バラは暗闇でも赤いか? 野矢茂樹	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	1
	トロンボーンを吹く女子 学生 渡辺 裕	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	1
	デジタル社会 黒崎政男	○	○		○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	1
	●羅針盤1 評論入門一																			
小説一	羅生門 芥川龍之介	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3
	【参考】羅城門の上層に登りて 死人を見る盗人の語 (今昔物語集)									○	○					○	○	○	○	
	愛されすぎた白鳥 小川洋子	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	○	○	1
●羅針盤2 フィクションを読み解く																				
評論二	ことばとは何か 内田 樹	○	○		○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	1
	〈わたし〉のいる場所 鷲田清一	○	○		○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	1
	演じられた風景 山崎正和	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	1
●羅針盤3 評論入門二																				
随想	小母さん 水村美苗	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○			○	○	○	1
	結ばれていく時間 内山 節	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○			○	○	○	1
	瓦を解かないこと 堀江敏幸	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○			○	○	○	1
評論三	言葉と経験 藤田正勝	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	2
	魔術化する科学技術 若林幹夫	○	○		○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	2
	「ものさし」の恍惚と不安 入不二基義	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	2
	●羅針盤3 評論のテーマ【言語】																			
小説二	棒 安部公房	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○			○	○	○	2
	待ち伏せ ティム・オブライエン/村上春樹	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○			○	○	○	2

図書の構成・内容		学習指導要領の内容													配当 時間					
編名・ 単元名	教材名・作者名	A 話すこと 聞くこと				B 書くこと				C 読むこと						伝統的な文化と国語 の特質に関する事項				
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	オ		ア	イ	ウ		
評論四	エケノフォニー 多和田葉子	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	2
	感性の考古学 見田宗介	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	2
	主体という物語 小坂井敏晶	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	2
	●羅針盤5 評論のテーマ[メディア]																			
詩歌	二十億光年の孤独 谷川俊太郎	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○	○		○	○		1
	喪失ではなく 吉原幸子	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○	○		○	○		
	竹・およぐひと 萩原朔太郎	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○			○	○		1
	小景異情 室生犀星	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○			○	○		
	短歌	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	○		1
	俳句	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○			○	○		1
●羅針盤6 伝統的定型詩の現代 —短歌・俳句														○						
評論五	開かれた文化 岡 真理	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	2
	来るべき民主主義 國分功一郎	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	2
	失われた両腕 清岡卓行	○	○		○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	2
	●羅針盤7 評論のテーマ[近代]																			
小説三	カプリンスキー氏 遠藤周作	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	3	
	夢十夜 夏目漱石	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	2	
評論六	マルジャーナの知恵 岩井克人	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	1
	環境と身体 河野哲也	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	2
	名付けと所有 西谷 修	○	○		○		○		○	○	○		○	○			○	○	○	2
	●羅針盤8 評論のテーマ[身体]																			
現代文編 合計																	50			
【表現編・付録】																				
表現編	1 ことばを発する					○		○	○	○			○	○	○		○	○		6
	2 ことばから文章へ	○				○	○	○	○		○		○	○		○	○		6	
	3 調べてまとめる	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○		○	○		8	
	4 話す・聞く	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○		○	○		10	
	5 自分を表現する	○				○	○	○			○	○	○			○	○		8	
	6 文学表現の世界					○		○	○	○		○	○	○	○		○	○	7	
付録	近現代文学史															○				
	常用漢字表																	○		
表現編 合計																	45			
【古文編】																				
古文 入門	古典の森へ											○			○	○	○	○		
	古文を学ぶために											○			○	○	○	○		
	見のそら寝 [宇治拾遺物語]									○	○	○			○	○	○	○	1	
	●古典文法の窓1 歴史的仮名遣い															○	○	○		
	絵仏師良秀 [宇治拾遺物語]									○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	
	●古典文法の窓2 品詞の分類															○	○	○		
大江山 [十訓抄]	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1		
●古典文法の窓3 用言の活用/音便															○	○	○			

図書構成・内容		学習指導要領の内容														配当時間				
編名・単元名	教材名・作者名	A 話すこと 聞くこと				B 書くこと				C 読むこと				伝統的な文化と国語 の特質に関する事項						
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	オ	(ア)(イ)(ウ)					
															(ア)		(イ)	(ウ)		
物語	竹取物語〈かぐや姫誕生 ／かぐや姫の嘆き〉						○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2
	伊勢物語〈芥川／東下り ／筒井筒／梓弓〉	○	○		○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	
	大和物語〈鹿の声〉	○	○	○	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○		2
	●古典文法の窓4 係り結びの法則 ／「ば」の用法														○	○	○	○		
日記	土佐日記〈門出／亡き児 をしのぶ／帰京〉	○	○		○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	
	更級日記〈東路の道の果 て／足柄山〉						○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	
	●古典文法の窓5 助動詞														○	○	○	○		
随筆一	徒然草〈つれづれなるま まに／丹波に出雲といふ 所あり／ある人、弓射る ことを習ふに／奥山に、 猫またといふもの／名を 聞くより、やがて面影は ／花は盛りに〉	○	○		○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	3	
	方丈記〈ゆく河の流れ〉	○	○		○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	
	【参考】歎逝賦 陸機 ●古典文法の窓6 助詞														○	○	○	○		
軍記	平家物語〈木曾の最期〉						○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	
	転換期の文学——『平家 物語』の魅力 兵藤裕己			○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	
	●古典文法の窓7 敬語法														○	○	○	○		
和歌と 俳諧	万葉集	○	○		○		○			○	○		○	○	○	○	○	○	2	
	古今和歌集	○	○		○		○			○	○		○	○	○	○	○	○		
	新古今和歌集						○			○	○		○	○	○	○	○	○	1	
	奥の細道〈序／白河の関 ／平泉／立石寺〉						○			○	○	○	○	○	○	○	○	○		
●古典文法の窓8 和歌・俳諧の修辞														○	○	○	○			
随筆二	いにしへよりも後世の まされること [玉勝間]									○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	
	落柿舎の記 [風俗文選]									○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	
	●古典文法の窓9 まぎらわしい語 の区別														○	○	○	○		
古文編 合計																		23		
【漢文編】																				
漢文 入門	漢文を学ぶために									○				○	○	○	○	2		
	訓読のきまり													○	○	○	○			
故事一	●送り仮名のきまり													○	○	○	○			
	借虎威 [戦国策]	○	○	○	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	1		
	推敲 [唐詩紀事]						○			○	○	○	○	○	○	○	○			
	嬰逆鱗 [韓非子]									○	○	○	○	○	○	○	○	1		
朝三暮四 [列子]									○	○	○	○	○	○	○	○				

図書の構成・内容		学習指導要領の内容													配当 時間					
編名・ 単元名	教材名・作者名	A 話すこと 聞くこと				B 書くこと				C 読むこと						伝統的な文化と国語 の特質に関する事項				
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	オ		(ア)	(イ)	(ア)	(イ)	(ア)
唐詩一	絶句 杜甫					○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	1
	静夜思 李白					○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	
	春望 杜甫					○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	1
	送友人 李白	○	○		○	○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	
	●漢詩のきまり1															○	○	○	○	
史伝	管鮑之交 [十八史略]	○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
	刺客荊軻 [十八史略]					○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
	死諸葛走生仲達 [十八史略]									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2
故事二	五十歩百歩 [孟子]	○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
	完璧 [十八史略]	○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
	塞翁馬 [淮南子]									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
唐詩二	春暁 孟浩然									○			○	○	○	○	○	○	○	1
	山亭夏日 高駢					○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	
	秋夜寄丘二十二員外 韋応物									○			○	○	○	○	○	○	○	
	江雪 柳宗元									○			○	○	○	○	○	○	○	1
	涼州詩 王翰									○			○	○	○	○	○	○	○	
	贈別 杜牧					○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	
	八月十五日夜、禁中独直、 对月憶元九 白居易		○	○						○			○	○	○	○	○	○	○	
●漢詩のきまり2															○	○	○	○		
文章	雑説 韓愈	○	○	○	○	○			○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	2
	売油翁 歐陽脩					○			○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	2
思想	論語					○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2
	【参考】苛政猛於虎 [礼記]					○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	孟子		○	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1
	●儒家の思想																			
漢文編 合計																	22			
【付録】																				
	古典常識															○	○	○	○	
	〈装束・調度／暦法〉																			
	古典文法要覧															○	○	○	○	
	古語の理解															○				
	日本古典文学史															○				
	中国文化史															○				
	漢文句法一覧															○	○		○	

- (備考) 1 ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入すること。
- 2 「編修上特に意を用いた点や特色」欄には、学習指導要領の総則に示す教育の方針や当該教科の目標を達成するため、編修上特に意を用いた点や特色を記入する。
- 3 「対照表」欄については、図書の構成・内容と学習指導要領に示す「内容」の各事項との対照について、「内容の取扱い」も踏まえて記入する。その際、「該当箇所」欄に、申請図書の該当箇所のページ（例：○～○ページ）を記入する。また、必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
- 4 「配当時数」欄には、申請図書で予定している配当授業時数を示すこと。なお、配当授業時数の記載が必要ない教科、種目については空欄でよい。
- 5 別紙様式9の分量は5ページ以内とする。